

性フェロモンを利用したハウス栽培なばなのコナガ防除

性フェロモンの利用とハウス内への侵入防止対策等を講じることでコナガへの薬剤散布が不要である。フェロモン剤（商品名：コナガコン）の使用量は、間口が 4.5m(2 間半)～7.2m(4 間)のハウスであれば 1 列（畝と平行）で良い。



写真1 フェロモン剤を設置したハウス

フェロモン剤はハウスのパイプ(高さ 2m位)を利用して畝と平行に張り渡す。

使用時期は、定植時と本剤の有効期間が切れる 3 か月後である。

フェロモン剤の利用だけではコナガの発生を防止できないので、以下の対策をとる。

- 1．育苗中のコナガ寄生防止
- 2．ハウス周辺作物のコナガ防除
- 3．ハウス内へのコナガ侵入防止

表1 春化处理（冷蔵）後のなばな苗におけるコナガ寄生状況

調査年次	調査場所	育苗時期	春化处理期間	調査月日	調査箱数	食害痕		卵数	幼虫数		
						箱数	苗数		若令	中老令	計
1997	佐倉河	8/16～8/24	71日	11/5	6	2	15	0	0	3	3
1998	"	8/15～8/21	67日	10/29	8	0	0	0	0	2	2
1997	姉体	8/17～8/30	89日	10/29	2	1	-	1	1	2	3
1997	"	8/30～9/7	81日	10/29	2	1	-	1	0	0	0

春化处理直後のなばな苗にコナガの幼虫等が寄生していることが確認された。

苗の育苗期間中に寄生すると考えられることから、この期間中、これを防止するため、ハウスに防虫ネットを張るか育苗箱を寒冷紗で覆う必要がある。

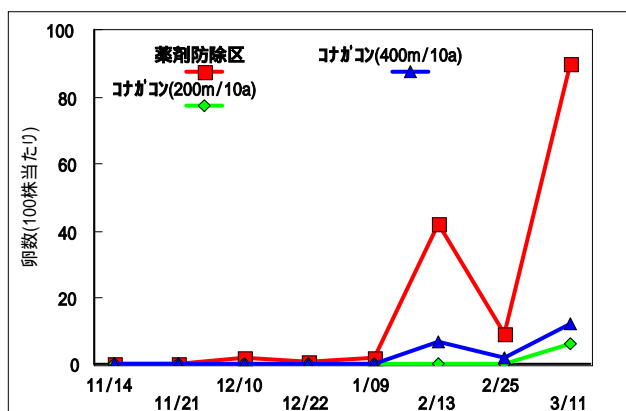


図1 コナガ産卵数の推移（1997,佐倉河）

各区とも定植 1 か月後の 11 月 21 日までコナガの産卵は確認されなかった。

しかし、薬剤防除区(注)は、12 月 10 日から産卵が認められ、1 月 9 日以降急増したのに対し、フェロモン剤の処理区では産卵数の増加は少なかった。

(注)散布は 2/19 に行われたので、この時点までは無処理である。